

よいみみのこうま

ふん・ささき たづ え・なかむら ゆき



よいみみのこうま

ぶん・ささき たづ え・なかむら ゆき



世界・のり出版



もう はるは そのまゝで、まて、いると
いうのに、くもった。それから、まだ
ときおり、ゆきが、あちらから

まいおちて、きました。

でも、どうぶつこのどもたちは、その
ほいいろの、そのの、したで、

げんきいっぱい、あそんで、いました。

かくれんぼ、する、もの

この、ゆび、とまれ、

かくれんぼ、する、もの

この、ゆび、とまれ、

まもなく、そこへ、「びきの、くりげの

こうまが、やって、きました。けれども、

さっきの、こどもたちの、すがたは、

もう、みえませんでした。

この、こうまは、いつも、みんなと

なかよく、あそんで、いました。

でも、うまれつき、みみの、きこえない

この、うまのこは、みんなが、さそいに

きた、ことに、きがつかないで、ときどき

おいてきぼりを、くいました。

こうまは、あちらこちら、かきまわって

さがしましたが、みんなの、すがたは

みあたりません。

そこで、こうまは、その、ひ、「いち、

ひとりで、きげんよく、あそびました。



つぎの ひは、ほんとうに はるが、あたまがなまい おでんきでした。
きょうは、あの こうまも みんなの なかまに はいって、げんきに
あそんで いました。

「あつ、こんを とこに おはなが、さいてる！ すいせんだ。」

と「わの、ことりが、いいました。」

みんな、かけまわって、それを、みました。

ひだまりの、つちの、なかから、はえた、すいせんの、みどりいろの

はるが、はと、ひらきかけた、しろい、はなは、まるで、はるの

おつかいのまようでした。

「きれいだ！」

「きれいだね！」

こどもたちは、はなめ、なかせ、そよよの、うきうきをまわした。





それから こじまは、じぶんの くびの ところを みんなに みせて
いました。

「ぼく、ここにここに、こんなに、けが、うずまいてるでしょ。これは、
ぼくが、かみさまに、つくられた、しるしだってま。なんでも、かみさまが
つくった、ものには、ちゃんと、しるしが、ついてるんだって。」

「ふーん！」

と、みんな、かんしんして、ききました。

きつねのは、りょうです。ねっしんは、あたまの、てっぺんを
さぐって、いましたが、

「あっ、ぼくも、あった。ほら、ここに。」

と、だいにきつねにつむじを、みんなに、みせました。

それから、きつねは、

「きみ、ある？ ぼく、みて、あげる。」

と、こじまの、あたまを、しらべに、かかりました。こじまは、



「はくの しるしは せなかにあるの、ちやいろい けの なかに ある しらいもようだよ、でも ふゆは ないんだ。」

と いいました。

「わたしの しるしは くちばしが あかいのか？」

「はくは ひかる はねの きき。」

「せなかの しまだ。」

「しっぽの うちの しらい けだ。」

みんな おもしろいのに いいました。

きつねのは、こうまの そばへ ちかよって きて いいました。

「きよの、どこ？ わた みせて。」

こうまは しずかに たったまま

だまって いました。

きつねは はじっこく、うまの おなかの したを くぐったり、

まえあしに きかかったり、ほうぼう しろべました。

こうまは つやの ある くりいろの

けなみでしたが、もようも しまでも けの うずまきも どこにも

ありませんでした。

「ないねえ。」

と、こぎつねが いいました。

「ないよ。」

「ほんとだ。」

「どうしてだろうねえ。」



と、こどもたちは、ふしぎなことに、いいました。
すると、こぶつねが、とつぜん、まげびました。

「あう、ほく、わかった！」

そして、きつねは、ちよっと、てまねきを、して、
みんなに、いいました。

「かみさまが、ほじめから、しるじき

つけなかったんだよ。だって、あの、こどもは
みんな、あこをなくて、さきそにないだから。

のきそにないには、かみさまは、しるじき
つけないんだよ、きつねと。」

そつ、いってから、きつねのこは

「これは、こどもには、ないしよなま。」

と、いうように、ちよっと、かためを、うごかして
みせました。



こどもたちは、おぼして、この、の、き、つ、ね、の、こ、を

じつと、みて、いましたね、ええ、

きにするようにも、なく、みんなと、おぼせて、

ゆりがたまで、あそんで、おつち

なと、いきました。

